

## 令和5年度全国学力調査（中3対象）の結果より

## 国語

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			本校	東京都(公立)	全国(公立)	
全体		15	67	72	69.8	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	59.2	69.6	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	65.6	66.2	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	66.7	73.1	74.7
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	83.8	84.4	82.2
		B 書くこと	2	63.8	66.8	63.2
C 読むこと		4	63.2	67.2	63.7	
評価の観点	知識・技能	7	64.2	70.1	69.4	
	思考・判断・表現	9	70.2	72.9	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	72.5	75.9	73.1	
	短答式	4	54.8	65.6	65.6	
	記述式	4	71.0	70.8	68.0	

全体として、本校は全国や都の平均正答率を下回る結果となりました。ただ、知識・技能の「情報の扱いに関する事項」についてはよく定着しており、「話すこと聞くこと」においては、全国の平均を上回ることができています。また、登場人物の心情を読み取ったり、話し合いをより良くするために論理的に考えられたり、文章をより良くするための工夫ができたり、日常的に使われる表現力や思考力は概ね全国を上回っていることがうかがえました。これらは、本校生徒の各単元に対する真面目で丁寧な学習姿勢から培われたものと思われます。

また、長文から必要な情報を引き出し、自ら工夫して回答するような書く力は、全国平均を上回り、力がついていることがわかりました。日頃から様々な種類の文章に慣れ親しみ、必要な情報を取り扱い、自らの工夫で答えを導き出す訓練をこれからも続けていきたいと思えます。

数学
----

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	東京都(公立)	全国(公立)
全体		15	52	54	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	67.0	66.0	63.0
	B 図形	3	33.9	39.2	33.2
	C 関数	4	48.8	54.3	51.2
	D データの活用	3	48.5	50.4	48.5
評価の観点	知識・技能	10	55.2	58.7	55.7
	思考・判断・表現	5	45.2	45.8	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	43.6	48.5	45.3
	短答式	6	62.9	65.5	62.6
	記述式	5	45.2	45.8	41.6

学習指導要領の4領域の内、2領域「数と式」、「図形」（「データの活用」は同等）の平均正答率において、全国平均を上回っています。知識・技能を問う問題、また短答式の問題の正答率が高くはないので、普段の学習の中で生徒が基礎的、基本的な技能を習得し、また短答式の問題の練習をしていく必要性を感じます。

一方、記述式の問題の正答率は、全国の正答率を上回っております。ただ、問題すべてを見た際に、7～8割程度正答している生徒は全国、東京都に比べ人数の割合が多い反面、正答率が2割程度にとどまる生徒は比較すると多くなっていることから、苦手意識をもっている生徒たちの理解力をいかに丁寧上げていくかが課題として考えられます。習熟度別の指導を活かし、個に応じた指導を今後も続けていきます。

## 英語

対象生徒数	江戸川区立春江中学校	東京都（公立）	全国（公立）
	163	71,486	893,528

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	東京都（公立）	全国（公立）
全体		17	41	52	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	51.5	64.7	58.4
	(2) 読むこと	6	48.1	57.2	51.2
	(3) 話すこと【やり取り】	0			
	(4) 話すこと【発表】	0			
	(5) 書くこと	5	18.5	29.6	23.4
評価の観点	知識・技能	9	45.3	57.9	51.5
	思考・判断・表現	8	35.4	44.8	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	49.8	61.0	54.8
	短答式	3	22.7	37.6	30.1
	記述式	2	12.3	17.6	13.5

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)*	
			本校	全国（国公立）
全体		5	9	12.4
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	0		
	(2) 読むこと	0		
	(3) 話すこと【やり取り】	4	10.9	14.5
	(4) 話すこと【発表】	1	3.2	4.2
	(5) 書くこと	0		
評価の観点	知識・技能	3	8.2	13.9
	思考・判断・表現	2	11.2	10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	0		
	短答式/口述式	3	8.2	13.9
	記述式/口述式	2	11.2	10.1

全体として、本校は全国や都の平均正答率を下回る結果となりました。「知識・技能」の平均正答率が低く、基礎的な文法や語彙が身につけていない生徒が多いことが見受けられます。全体を見ると習熟度の高い生徒もいますが、基礎が定着していない生徒が多いと考えられるので、引き続き授業等で、文法や単語の復習を行う必要性を感じます。学習指導要領の領域を見てみると、「知識・技能」が身につけていないために「書くこと」や「話すこと」に苦手意識を感じている生徒が多いようです。特に、「話すこと」においては全国的にもかなり平均正答率が低くなっており、本校でも同様に低い数字が出てしまっています。「話すこと」においては都立の入学試験でも実施されるので、授業で「話す」機会を増やすとともに、試験自体の対策も必要となると考えられるので、授業でも試験対策を取り扱っていきたいと思います。

## 生徒質問紙の集計結果より

基本的な生活習慣（睡眠・食事）については、全国や東京都の結果とおおむね同じくらいとなっています。「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問では肯定的な回答が全国、都の平均に対して高く、朝の挨拶運動や3分前着席、予鈴登校などの生徒たちの取組の成果が出ているようです。

また、自分自身に関する質問に対しては、「将来の夢や目標を持っていますか」という回答は、全国平均より4～5ポイント低く、将来の展望を持たない生徒がいることがわかりました。また、他人とのかかわりに関する質問では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対する回答は2～3ポイント上回っており、他人に対する優しい気持ち、自分への肯定的な気持ちが大きいことがわかりました。

一方「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」や「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問では、都に比べ肯定的な回答は8ポイント程度下回る結果となりました。試験に向けての学習計画や試験勉強など、家庭学習に課題があることが伺えます。将来を見据え、自分のために普段から努力できる環境をご家庭と連携しながら作っていくことが必要だと考えます。